

## 評価シート 様式

取組名	アジアへ発信、宗像の宝 ～観光を主体とした宗像産業振興プロジェクト～		
実施団体名	宗像市	対象地域	福岡県宗像市を中心とする福岡県北部沿岸地域
(代表団体名)		推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果		④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	アジアへ発信、宗像の宝 ～観光を主体とした宗像産業振興プロジェクト～		
実施団体名	宗像市	対象地域	福岡県宗像市を中心とする福岡県北部沿岸地域
(代表団体名)		推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	離島と本土側地域との連携による観光振興・産業振興プログラムの開発によって地域振興をはかろうとする相乗効果・波及効果の高い事業である。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。	
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、平成17年に宗像市に編入合併された大島、および、世界遺産暫定リストに記載された沖ノ島の地域資源を活用して、アジア地域を視野に入れた観光分野において新たなプログラムを提供し、地域振興をはかろうとする事業で、離島と本土が連携して相互の活性化を目指す取組であり、行政、農業協同組合、漁業協同組合、商工会、観光協会の綿密な連携体制のもとで、地域全体をあげた取組を構築している点が高く評価できる。今後は、以下に留意しつつ地方の元気再生事業として支援を行うことにより継続的な展開が期待できるものである。
	次年度以降については、各取組の継続的な実施体制の構築を図るべきである。また、観光プログラムの具体化に向けて、市域をこえた地域全体の観光戦略における位置づけを踏まえて広域連携を展開する取組を強化するとともに、農水産物の商品開発プロジェクトについては、広範な販売PRを行い、各取組の自立化の実現に傾注すべきである。
	具体的には、取組1. の広域観光プログラムの開発においては、周辺市町との連携強化に向けて「玄海地区観光連絡協議会」としての活動を強化し、民間ツアー会社の販売体制整備を重点に取り組み、観光プログラムの確実な商品化につとめるとともに、取組2. については、首都圏、関西圏なども視野に入れた広範なPRのあり方を検討すべきである。また、取組4. のアジア地域との交流を考える上では、昨今の経済情勢を十分に踏まえた観光ターゲットの選定が不可欠であり、抜本的に見直す必要がある。